

# 毛髪再生医療のための毛包原基の大量調製技術

## 分野・用途

植毛事業、発毛・育毛剤開発事業、培養皮膚事業

## 本研究の特徴

微細加工を用いて作製した独自の培養チップを用いて、毛包原基を一度に大量（～5000個）かつ簡便に調製することが可能

## 酸素透過性に優れた毛髪再生のための培養皿

- ✓ 培養皿に細胞混合液を注ぐのみで約5000個の組織を調製可能
- ✓ 大量細胞培養で課題となる細胞の低酸素障害を抑制可能
- ✓ 毛包原基内部に血管等を付与することも可能



## 毛包原基の移植による毛髪再生

- ✓ 大量調製した毛包原基をヌードマウスに移植すると、毛髪の再生を確認
- ✓ シートとして移植することで、高密度に毛髪を再生可能
- ✓ 生体外培養においても、発毛を確認



## 毛髪再生事業の実用化に向けて

関連特許3件、順次国際出願へ移行

ヒト臨床試験の実施において、CPCを有する企業との連携を希望

研究者：横浜国立大学 大学院工学研究院 教授 福田淳二  
 連絡先：研究推進機構 産学官連携推進部門  
 (電話) 045-339-4447 (E-mail) sangaku.sangaku@ynu.ac.jp